

平成29年度 事業報告

I 運動推進事業

1 海洋・海事思想の普及

(1) 美ら海体験教室事業

一般財団法人近藤記念海事財団との共催により、7月15日(土)及び16日(日)に沖縄県読谷村及び宜野湾市においてサンゴ移植体験を含む海洋環境学習とマリンスポーツ体験を組み合わせた「第10回美ら海体験教室」を実施した。

沖縄県内から少年少女とその父兄156名が参加し、海洋環境教室及びサンゴ移植体験、ビーチクリーニングを行い海洋環境問題について理解を深めるとともに、ヨット・カヌー等のマリンスポーツ等を通じて海洋・海事思想の普及に努めた。

(2) 我ら海の子展事業

一般財団法人サークルクラブ協会との共催により、船、海や船で働く人、海の環境保全や震災復興などをテーマにした絵画を全国の幼児・児童から募集する「第45回我ら海の子展」を実施した。

全国から5,026点の応募があり、8月18日に都内のホテルにおいて授賞式を行い石井国土交通大臣から国土交通大臣賞(中学生の部:中2一森彩雪さん、小学生以下の部:小3藤縄あのんさん)を授与するとともに、優秀作品50点と震災復興の願いを込めて「がんばろう日本賞」8点の計60点を表彰した。

これらの作品は、銀座ギャラリー(東京都:8月5日~8月30日)、国土交通省1階展示コーナー(東京都:9月4日~15日)、アクアマリンふくしま(福島県:9月30日~11月23日)、氷川丸(神奈川県:11月28日~12月17日)、海の科学館(香川県:1月13日~翌2月12日)等において展示して海洋・海事思想の普及に努めた。

(3) 褒状山縣賞授与事業

一般財団法人山縣記念財団の支援により、3月16日(金)~18日(日)、褒状山縣賞授与事業を実施した。

全国の褒状受賞者の中で、特に優秀な卒団者及び指導者5名に対して褒状山縣賞を授与した。

3月16日に東京都の川崎汽船株式会社において行われた授賞式にこのうち3名が出席、3月17日及び18日は4名が横浜市内及び東京都内において行われた海洋・海事研修に参加し、海洋・海事知識の更なる向上と今後の海洋少年団活動へのモチベーションの昂揚を図るとともに、海洋・海事思想の普及に努めた。

2 海洋少年団運動の広報

(1) 「海の月間」に開催された「海フェスタ神戸」、全国各地で展開された記念式典、各種パレード、カッターレース、巡視船体験航海、みなとまつり、海浜清掃等の行事に参加し、海洋少年団運動の普及に努めた。

(2) 機関紙「海っ子」を年5回(内1回は合併号)発行して、各海洋少年団及び関係行政機関、関係団体、各地の図書館等に配布し、海洋少年団運動をPRした。

(3) 日本連盟のホームページを活用するほかFacebookを導入し、海洋少年団に関する情報をインターネットにより内外に紹介するとともに、海洋少年団運動についての理解を深めた。

(4) ポスター、パンフレット等を各海洋少年団、関係機関等に配布し、海洋少年団運

動の普及に努めた。

- (5) 海上保安庁等の関係機関、一般社団法人日本船主協会等の関係団体と連携し、各種行事への参加を通じて国民に海洋少年団運動をPRした。
- (6) 海洋少年団運動をPRするための広報用DVDを作成し、各海洋少年団に配布した。また、より簡単に海洋少年団活動を知ってもらうために3分程度の短縮版をYoutubeに掲載した。さらに、海洋少年団用の幟を作成し各海洋少年団に配布した。

3 海洋少年団運動の拡充／推進／強化・活性化

(1) 運動の拡充

イ 日本海洋少年団連盟団会員名簿の更新等の確かな団会員の把握及び名簿管理を行うとともに、新団会員に対して会員証を484枚を作成・発行した。

ロ 海洋少年団の拡充を図るため、新団設立等の経費、新入団員の制服購入費等の一部を助成した。

ハ 海洋少年団運動を支援するため、次の海洋活動器材等の整備を進めた。

(イ) 若年団員を対象とした海洋器材としてカヌー11艇を購入し、目白台海洋少年団に5艇、岩国海洋少年団に2艇、伊万里海洋少年団に3艇、熊本火の国海洋少年団に1艇を配布した。

(ロ) 海上活動の安全を確保・徹底するため、救命胴衣65着を購入し、横浜海洋少年団に20着、目白台海洋少年団に7着、小浜海洋少年団に10着、呉海洋少年団に15着、熊本火の国海洋少年団に13着を配布した。

(ハ) 海洋活動器材等の整備として、酒田海洋少年団(143,100円)、横浜海洋少年団(259,200円)、目白台海洋少年団(116,640円)、四日市海洋少年団(88,884円)、南勢海洋少年団(66,852円)の修理費を助成し、カッター用のオールとして八戸海洋少年団に9本、横浜海洋少年団に4本、敦賀海洋少年団に6本、宇部海洋少年団6本を購入し配布した。

ニ 各海洋少年団活動の円滑な推進を支援するため、損害賠償責任保険に加入した。

(2) 運動の推進

イ 地域貢献・交流活動を推進するため、地域貢献の核となる地区連盟の活動を次のとおり助成した。

北海道地区連盟(265,261円)、東北地区連盟(363,363円)、関東地区連盟(400,000円)、東京地区連盟(400,000円)、中部地区連盟(266,019円)、近畿地区連盟(145,128円)及び南九州地区連盟(393,448円)

また、地区大会を開催した北海道地区連盟には148,942円を助成した。

ロ 団長会議 事務局長会議を開催した。

ハ 指導体制を管理するため、指導者資格審査委員会を開催し、指導者の登録制度を推進するとともに、指導者の実態把握を行い、統括指導者8名及び指導者44名を登録した。

ニ 海洋少年団運動に功績のあった団体、団員等を表彰し、海洋少年団運動の普及を図った。

ホ 海洋少年団の制服の見直しを行い、日本海洋少年団連盟服装細則の一部を改正した。

(3) 運動の強化・活性化

イ 各地区において強化・活性化を図るため、平成28年度から各地区に運輸局、管

区海上保安本部、海事関係団体、海事関係企業、海事教育機関等を構成メンバーとして、強化・活性化プロジェクトチームを設立してきたが、昨年度は東北地区及び日本海中部地区に設立するとともに、各地区における強化・活性化のための問題点等の検討を行なった。

ロ 各地における新団結成活動等を促進するため、前年度に引き続き、日本海洋少年団地区連盟、関係行政機関等の協力により新団結成を積極的に推進するとともに、日本連盟職員、地区連盟職員を派遣し、新団設立のための支援、調整等を行った。

ハ 日本連盟主催による上級指導者養成研修

2月3日（土）及び4日（日）に独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、大学教授・准教授、日本連盟職員等を講師に、日本連盟認定の「上級指導者養成研修」を実施し、八戸海洋少年団、天王海洋少年団、三原海洋少年団、徳山海洋少年団、宇部海洋少年団及び佐世保海洋少年団から合計9名が受講した。

二 地区連盟主催による指導者養成研修

地区連盟主催による指導者養成研修会等の開催を勧奨するとともに、指導者の養成を推進するため、日本海洋少年団地区連盟が主催する指導者研修・指導者養成研修等について次のとおり助成した。

北海道地区連盟（66,960円）、東北地区連盟（82,380円）、東京地区連盟（33,061円）、近畿地区連盟（4,844円）、九州北部地区連盟（33,881円）

ホ 財政基盤が不十分な団に対し、活動経費の助成を行なった。

4 海洋環境教育・地域貢献の推進

(1) 各海洋少年団が地域貢献活動として公益社団法人日本水難救済会の実施する「青い羽根」募金運動に協力し、千葉北部海洋少年団、藤沢海洋少年団、清水海洋少年団、千代田区海洋少年団、浜田海洋少年団に日本水難救済会会長から感謝状が贈呈された。また、長年にわたって取組んできた海岸清掃等の功績により、中日海洋少年団及び海洋少年団千葉市連盟が緑綬褒章を授章した。

(2) 南勢海洋少年団主催による五ヶ所浦～伊勢神宮までのを市内小・中学生等とともに歩く耐寒訓練を地域貢献モデル事業と認定し、必要経費35,500円を助成した。

II 全国大会事業

第53回日本海洋少年団全国大会を福岡市において開催した。台風5号の影響により、大会期間を1日縮小し8月4日から6日までとなったが、全国から44団、616名及び海外から英国、カナダ及び香港の3団、15名と大会運営関係者235名の合計927名が参加して、団員相互の親睦と国際親善、海洋・海事思想の普及に努めた。

本大会には、日本連盟名誉総裁の高円宮妃殿下及び絢子女王殿下がご臨席され、福岡国際会議場で開催した開会式において参加団員を激励され、また、パレード及びロープワーク競技をご視察された。

開会式は、神山修文部科学省大臣官房審議官、七尾英弘国土交通省大臣官房審議官、衛藤征士郎海事振興連盟会長、中島敏海上保安庁長官、小川洋福岡県知事、高島宗一郎福岡市長をはじめ多くの来賓の方々を迎え開催した。

競技は、手旗及びロープワークの室内競技のみを実施した。

閉会式は、福岡県立社会教育総合センターにおいて高木海事振興連盟副会長・事務

総長、菊池宗幸福岡海上保安部長ほか来賓の方々を迎えて開催した。

Ⅲ 国際交流事業

1 国際海洋少年団協会年次総会

10月21日～23日に開催された国際海洋少年団協会（I S C A）年次総会オーストラリア（ブリスベン）会議に日本代表団3名を派遣し、多数の議題について熱心な討議や情報交換を行った。

2 国際委員会

2月20日に千代田区において国際委員会を開催し、平成29年度の事業報告及び国際交流活動収支報告、次年度の事業計画及び収支予算計画が承認された。

3 海外青少年招聘

8月4日から12日までの9日間、全国大会の開催に合わせ、国際海洋少年団協会（I S C A）加盟国の英国、カナダ及び香港の海洋少年団15名を招請し、日本連盟のほか、目白台海洋少年団、中日海洋少年団、南勢海洋少年団、岩国海洋少年団及び鹿児島海洋少年団の10名がホストとなり、福岡県、山口県及び広島県内において研修、訓練等を行ない、相互交流を深めた。

Ⅳ 需品事業

（1）日本海洋少年団連盟規約に基づく制服、制帽及び徽章類を作成して販売した。

（2）機関紙及び「海の訓練ワークブック」を販売した。